

# 神経科学ニュース

*Neuroscience News · Japan Neuroscience Society*

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9(財)日本学会事務センター内  
日本神経科学学会

TEL: 03-5814-5810 FAX: 03-5814-5825

## 第26回日本神経科学大会のご案内 - 第5報 -

第26回日本神経科学大会実行委員会

第26回日本神経科学大会(2003年7月23～25日、名古屋国際会議場)が間近に迫って参りました。大会についての最新情報をご案内申し上げます。

1. プログラム集は、演題をお出しいただいた方に既に送付申し上げております。
2. 英文抄録集(Neuroscience Research Supplement)は当日受付(英文抄録配付デスク)においてピックアップして頂きます。
3. HP (<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/molneuro.dir/jnss26/>) に大会日程及び特別講演、モーニングレクチャー、シンポジウムのabstractが掲載されております。ご覧下さい。
4. 発表要領がHPにpdfファイルで掲載されています。ご一読下さい。
5. すべての講演発表(特別講演、モーニングレクチャー、シンポジウム、一般口演、ランチョンセミナー)にはPCプロジェクターを使用いたします。各自ノート型PCをご持参下さい。また持参されるPCの機

### 目 次

第26回日本神経科学大会のご案内 - 第5報 - .....	1
日本神経科学学会奨励賞決定 .....	2
第5回時実利彦記念賞について .....	2
平成16年度科学研究費補助金審査委員(第1段)候補者の推薦 .....	3
UCSFへようこそー新しいMission Bay キャンパスの紹介 .....	3
シンポジウム・研究会のお知らせ .....	5
研究助成 .....	10
公募 .....	10
その他 .....	14
編集後記 .....	14

種を大会までに事務局 hhida@med.nagoya-cu.ac.jp までお知らせ下さい。

6. 前号でもお知らせいたしましたが、特別講演、シンポジウムは原則として英語で発表していただきます。また、一般口演及びポスター発表の図表、説明等は英文で作成して下さい。ご協力の程、宜しくお願いたします。

7. 第26回日本神経科学大会総会：7月24日18時よりA会場において総会を行います。総会において、時実利彦記念授賞式、日本神経科学会奨励賞、2002 Neuroscience Research優秀論文賞、Travel Awardの表彰を行います。

8. 懇親会：総会に引き続きレセプションホールにおいて懇親会(名ファイル室内楽演奏あり)が開催されます。多くの皆様のご参加をお待ちいたします。

9. 会期中、託児所が開設されます。ご使用の方は事前にお申し込み下さい。

10. サテライト市民公開講座「脳を育む」が7月26日(土)午後1時30分よりA会場において開催されません。奮ってご参加下さい。

以上、第26回日本神経科学大会についてご案内申し上げます。

多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。

## 2003年度 日本神経科学学会奨励賞決定

筒井健一郎博士(ケンブリッジ大学解剖学)

納家勇治博士(東京大学大学院医学系研究科)

## 第5回時実利彦記念賞について

日本神経科学学会は、平成15年度時実利彦記念賞を下條 信輔カリフォルニア工科大学生物学部教授(研究業績：輪郭や面にかかわる新しい知覚現象の発見とその神経基盤の解明)に授与することを決定した。時実利彦記念賞は、東京大学医学部にあって脳研究を推進された同氏を記念した賞で、原則として55歳

以下の脳研究者が対象とされ、受賞者に賞状と副賞100万円が贈られる。時実利彦記念賞は、平成11年度から設けられたもので、本年度の受賞者が第5回目の受賞者となる。

なお、授与式及び受賞記念講演は、7月23日(水)から名古屋国際会議場で開催される第26回日本神経科学大会のなかで行なう。

### 時実利彦氏の略歴

明治42年9月4日 岡山県和気郡備前町香登西338に生まれる

昭和9年3月 東京帝国大学医学部医学科卒業

昭和18年6月 東京帝国大学医学部生理学教室助手

昭和23年4月 東京大学講師

昭和29年1月 東京大学助教授

昭和29年8月 カルフォルニア大学ロスアンゼルス校解剖学教室留学

昭和31年11月 東京大学教授(医学部脳研究施設生理学部門)

昭和37年4月 東京大学医学部脳研究施設長

昭和42年7月 京都大学霊長類研究所教授併任

昭和45年4月 京都大学教授

昭和45年5月 東京大学名誉教授

昭和48年4月 京都大学定年退官

昭和48年7月 勲二等瑞宝章受賞

昭和48年8月3日 逝去 従三位受賞

### 主な著書

脳の話 岩波書店(新書) 初版1962年(現63版)

人間であること 岩波書店(新書) 初版1970年(現55版)

脳と人間 雷鳥社 初版1968年

以上

### 時実利彦記念賞受賞者一覧

平成11年度

時実利彦記念賞 順天堂大学医学部 彦坂 興秀教授

特別賞 富山医科薬科大学 小野 武年教授

平成12年度

時実利彦記念賞 東京大学医学部 宮下 保司教授

特別賞 東北大学大学院医学研究科 丹治 順教授

平成13年度

時実利彦記念賞 ATR 川人 光男<sup>ポディクトリガー</sup>  
 // 京都府立医科大学医学部 木村 實教授  
 特別賞 東京女子医科大学脳神経センター 岩田 誠  
 所長

平成 14 年度

時実利彦記念賞 理化学研究所脳科学総合研究セン  
 ター 田中 啓治 <sup>グループディレクター</sup>

平成 15 年度

時実利彦記念賞 カリフォルニア工科大学 下條  
 信輔教授

### 平成 16 年度科学研究費補助金 審査委員(第 1 段)候補者の推薦

日本学術会議から依頼された表記の件につき、4 月  
 に実施した正会員による選挙の結果にもとづいて以  
 下の方を推薦しました。なお会員選挙の結果につい  
 ては学会事務室 jnss@mb.neweb.ne.jp にメールでお  
 問い合わせ下さればお知らせします。上位得票者で  
 委員在任中または他細目との重複のため推薦できな  
 かった方が 2 名あります。

(分科)神経科学(細目)神経科学一般 12 名

村上 富士夫 藤田 一郎 入来 篤史 井原 康夫  
 渡辺 恭良 大隅典子 渋谷 克栄 南部 篤 岡  
 本 仁 川口 泰雄 河田 光博 河西 春郎

(分科)情報学(細目)感性情報学・ソフトコンピュー  
 ティング(分割 A)感性情報学 2 名

中田 力 乾 敏郎

(分科)情報学(細目)認知科学 2 名

澤口 俊之 泰羅 雅登

(分科)情報学(細目)生体生命情報学(分割 B)生命体  
 システム情報学 2 名

谷藤 学 定藤 規弘

このうち各細目で半数の方が日本学術会議の指名で  
 審査委員に就任され、同数の継続の委員とともに次  
 回からの審査にあたられます(委員名は任期中は非公  
 開)。

### UCSF へようこそー 新しい 'Mission Bay キャンパスの紹介

富田進

David S. Bredt's Lab,

Department of Physiology

UCSF

序論

6 月 10 日に、会報の編集委員でいらっしゃる狩野先  
 生から一通のメールが来た。

<何でも結構ですから、6/25 まで に原稿をいただ  
 けますと幸いです>とのこと。

なんてこったい、いったい僕に何が書けるんだろ  
 う。5 月末に岡崎国立生理学研究所で行われた「岡  
 崎生理研研究会」の印象記を書こうと思ったが、こ  
 の会は内容が充実しており自分のためになった。と  
 いう他に書くことがない。うーん、はて? そうい  
 や最近ラボ引っ越ししたなあ、ということから、タ  
 イトル「UCSF へようこそー 新しい 'Mission Bay  
 キャンパスの紹介」です。この先の文章が、留学を  
 考えている人、特に UCSF を考えている人の参考に  
 なれば、と書かせていただきます。

UCSF

UCSF (University of California, San Francisco) は  
 病院を併設している大学院大学で、サンフランシス  
 コ市内に点在する 11 の研究施設をもち、すべて合わ  
 せると 1500 もの研究室があります。特に神経科学分  
 野では 2002 年全米 1 位にランクされています。(詳し  
 くは、www.ucsf.edu を参照。)重要なことは、大学が  
 大きく施設がサンフランシスコ市内に点在している  
 ために、UCSF を訪問するときは目的がどのキャン  
 パスにあるのかを確認してください。私は初めて  
 来たときには USF (University of San Francisco) に  
 行ってしまいました。ちなみにこれは全く違う大学  
 です。

さて、2003 年 1 月に、UCSF に更にもう一つの巨  
 大なキャンパスが誕生しました。それが Mission  
 Bay キャンパスです。ここには、現在 Genentech Hall

と呼ばれるビルが一つだけ存在し、すでに化学系から生命系まで多岐にわたる基礎系研究室がはいっています。2003年末には、The Genetics, Development and Behavioral Sciences Building が完成予定でビルの名前の様な研究室が入り、2020年まで17年の歳月をかけてこの地区を再開発し、ほとんどのUCSF基礎系研究室をMission Bayキャンパスに移転させる計画です。

#### Mission Bay キャンパス

Bredt ラボも今年の3月にMission Bay キャンパスに移転したので、この新しいキャンパスについてレポートしてみたいと思います。Genentech Hallには、動物舎、喫茶、図書館、会議場のほかに、20もの巨大なスペースがあり、それぞれのスペースに研究領域の近い4,5のラボが仲良く入る、という形態がとられています。私のボスDavid S. Bredtは、小脳からNO synthase(NOS)の精製およびcDNAクローニングに世界で初めて成功し、現在の興味は、彼いわく<シナプスの集積および調節機構>です。興味が似ているところにあるRoger A. Nicoll, David Julius, Robert H. Edwards, David Pearceとスペースを共にしています。スペースを共有する利点として、これまではラボ内の情報交換が主だったのが、共有する他のラボとの情報や技術交換が活発になりサイエンスが活性化されるということです。これは実際に驚くほどラボ間でオープンで、僕自身、他のポスドクや上記のP.I.とラボで気軽に討論できるのは非常に良い経験となっています。加えて、Bredt ラボは、化学、構造生物、生化学、細胞生物、遺伝学、転写等分野の異なる領域出身のポスドクが集まっており、ラボ内においてもデータやアイデアがさまざまな角度から検討されていきます。

#### Mission Bay キャンパスの一日

朝同僚に会ったら、はじめの会話は今日の昼飯についてです。これは、Mission Bay キャンパスが出来て日が浅く、周囲に食事をできる場所が少ないため、ほとんどの人が昼飯持参です。数年後には改善されると思います。さて、そんな会話の終了後、実

験開始です。これは、日本と同じようなものを淡々とこなしています。ピペット、チューブ、遠心と、、、実験をしていると、ときどきBredt や他のボスがベンチにやって来ます。これが、討論開始の合図です。現在は自分のボスが5人いて、彼らに科学、英語、たち振る舞いを鍛えてもらっています。さて、実際に私とBredtの討論の場面を紹介しましょう。通常、先ず自分が考えている実験モデルを発表し、続いて自分のデータを見せ、現在自分がどんなトラブルを抱えているか、そして、どの実験を優先してすべきか、を話します。大抵の場合、最後にBredtはアメリカの様々なことわざ(例えば、one bird in hands is more than two in bushなど)を引用して話が終わります。

昼飯は、共有するラボのポスドクが1カ所に集まって、熱い討論や現在の実験進行状況、そして漫談をしながらとってます。さて、午後。午前中と同様に時は流れていき、一日は終了です。また、週に数回はUCSF外の研究者による講演があり、終了後、活発な討論が行われます。

つらつらと書きましたが最後にまとめますと、私の思うところ、UCSFは実験設備や環境が整っている上に、特筆すべき利点としてラボ間がオープンなことによる盛んなコミュニケーションがあげられると思います。ときとして皆が非常に似通った考え方になってしまうラボにおいて、いつも他のラボの新鮮な考え方にふれられることは、間違いなく自分を磨いてくれる。そう信じながら、また、皆と雑談です。最後になりますが、この原稿を書くに当たってご助言をくださった深田正紀先生、深田優子先生、富田恵先生、武藤彩先生、加藤明彦先生に心から感謝します。

**INFORMATION****シンポジウム・研究会**

**シンポジウム**  
**「嗅覚・味覚受容系研究の  
 新展開」**  
**(日本解剖学会関東支部 懇話会  
 のご案内)**

日本解剖学会関東支部 第13回懇話会が下記の通り開催されます。

シンポジウム,特別講演とも,参加費は無料で事前参加登録は不要です。

解剖学会会員以外の方もどうぞお気軽にご参加ください。

日時:2003年(平成15年)7月19日(土)10時~

場所:杏林大学三鷹キャンパス 大学院講堂

会場までの交通は,吉祥寺駅・三鷹駅(JR中央線)または仙川駅(京王線)からバスが便利です。詳しくは,杏林大学ホームページをご参照下さい。

**プログラム****【午前の部 10:00 ~ 12:30】**

シンポジウム「嗅覚・味覚受容系研究の新展開」  
 「におい・味受容細胞の分化と死に関する組織細胞学的研究」

鈴木裕子(北海道医療大)

「哺乳類の鼻腔化学受容系の比較解剖学的研究から」

高見 茂(杏林大)

「脳ニューロンを生み出す胚期嗅覚路に関する実験形態学的アプローチ」

村上志津子(順天堂大)

「味覚器の機能形態学の新たな展開」

吉江紀夫(日本歯科大)

**【午後の部 13:30 ~ 15:30】**

特別講演

「走査電顕でみたマウスの発生 - 初期発生から器官形成へ - 」

近藤俊三(三菱化学生命研)

特別講演

「形態学研究の現状と将来像」(仮)

平野 寛(日体柔整専門学校, 杏林大)

お問い合わせ:

杏林大学医学部第1解剖学

E-mail: anatomy1@kyorin-u.ac.jp

TEL: 0422-47-5512(内線 3415)/ FAX: 0422-41-5452

**2003年度生理学  
 若手サマースクール実施要綱**

テーマ 神経活動の記録・解析とその情報表現  
 「記憶と学習のメカニズム」

開催日時 平成15年8月3日(日)~5日(火)

開催場所 東京医科歯科大学 5号館講堂 (東京都文京区湯島)

(JR 御茶ノ水駅徒歩3分・地下鉄丸の内線御茶ノ水駅徒歩1分・地下鉄千代田線新御茶ノ水駅徒歩5分)

参加費用 有職者 6000円、大学院生 4000円、学部学生 2000円

参加資格 年齢、生理学会員であるかどうか、若手の会会員であるかどうかなど、一切問いません。

このテーマに興味のある方ならどなたでも参加していただけます。

申し込み方法 登録フォーム(<http://www009.upp.so-net.ne.jp/susumu/seiri.html>)に必要事項を記入の上お申し込みください。

コーディネーター

松田哲也(東京医科歯科大学大学院心療ターミナル医学分野)

高橋 晋(京都大学大学院文学研究科心理学研究室)

アドバイザー

金子章道(慶應義塾大学名誉教授、星城大学リハビリテーション学部教授)

泰羅雅登(日本大学大学院医学研究科応用システム神経科学)

主催 日本生理学会 日本生理学会若手の会

サマースクール事務局

東京医科歯科大学大学院心療ターミナル医学分野内

東京都文京区湯島 1 - 5 - 45 松田哲也

(Tel) 03-5803-5859 (Fax)03-5803-0217

(E-mail) matsuda.psy@tmd.ac.jp

プログラム

(Basic course)

8月3日(日)

10:30 ~ 12:00(脳科学の話を理解するための基礎的解剖学)

泰羅雅登(日本大学大学院医学研究科応用システム神経科学)

(Applied course)

8月3日(日)

13:00 ~ 15:00(記憶と学習のメカニズム)

塚田稔(玉川大学工学部)

15:30 ~ 17:30(ワーキングメモリーの神経機構)

船橋新太郎(京都大学大学院人間環境学研究科)

8月4日(月)

10:00 ~ 12:00(心理学的アプローチから捉えた記憶と学習のメカニズム)

渡邊正孝(東京都神経科学総合研究所心理学研究部門)

13:00 ~ 15:00(記憶課題中のニューロン集団の活動と脳内情報表現)

桜井芳雄(京都大学大学院文学研究科心理学研究室)

15:30 ~ 17:30(臨床神経心理学からみた記憶と学習のメカニズム)

加藤元一郎(慶應義塾大学医学部精神神経科)

8月5日(火)

10:00 ~ 12:00(学習・記憶と加齢による記憶障害の分子メカニズム:ショウジョウバエによる分子遺伝学的研究)

斉藤実(東京都神経科学総合研究所 分子神経生理研究部門)

13:00 ~ 15:00(ヒトの記憶の生物学的基盤)

藤井俊勝(東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻高次機能障害学)

第53回 科学講演会のご案内  
テーマ:遺伝子治療と再生医療

演 題

1. インターフェロンと遺伝子治療

名古屋大学大学院医学系研究科教授 吉田 純

2. 中枢神経系再生医学

慶應義塾大学医学部生理学教室教授 岡野栄之

とき:平成 15 年 9 月 19 日(金)

開場 17時30分 開演 18時00分 終演 20時45分

ところ:有楽町朝日ホール

有楽町マリオン 11 階(JR 有楽町駅前)

入場料:無料・予約無し・当日会場先着順・定員630名

ご来聴の方には、後日講演記録を進呈いたします。

主催:財団法人 東レ科学振興会

問合せ先:Tel 047-350-6103 Fax 047-350-6082

Email JDP00120@nifty.ne.jp

## 第20回加藤記念 バイオサイエンス研究振興財団 公開シンポジウム

「がん研究・診療の最前線 - がん治療への新しいアプローチ -」

日時:平成15年10月11日(土) 13:00 ~ 18:00

会場:経団連ホール(東京都千代田区大手町)

地下鉄 大手町駅下車 1分 Tel 03-3479-1411

主催:(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団

後援:文部科学省・厚生労働省・日本癌学会・日本癌治療学会(予定)

オーガナイザー:寺田 雅昭 (先端医療センター センター長)

:鶴尾 隆 (東京大学分子細胞生物学研究所教授)

プログラム

1. がん研究の現況

寺田雅昭 先端医療センター センター長

2. ゲノム解析に基づく分子標的治療薬の開発

中村祐輔 東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター教授

3. 最新の画像診断

森山紀之 国立がんセンター中央病院放射線診断部長

4. Molecular Cancer Therapeutics: Translating new targets from lab to clinic

Paul Workman The Institute of Cancer Research, Sutton, UK

5. 肺がんの多臓器転移に対する分子標的制御の戦略

曽根三郎 徳島大学医学部分子制御内科学教授

6. 同種免疫細胞を用いたがん治療

高上洋一 国立がんセンター中央病院薬物療法部移植・免疫部門責任者

7. がんの低侵襲外科手術 内視鏡下手術からロボット工学医療へ

森川康英 慶應義塾大学医学部外科学助教授

まとめ

鶴尾 隆 東京大学分子細胞生物学研究所教授

参加方法:参加費無料。E-Mail・FAXまたは葉書にて住所・氏名・所属・電話番号を明記のうえ、下記にお申し込みください。但し、定員(420名)になり次第締め切ります。

申込締切:10月1日

申し込み先:(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団

〒194-8533 町田市 旭町 3-6-6

Tel 042-725-2576、FAX 042-722-8614、

E-Mail kato.zaidan@kyowa.co.jp

担当 事務局 持田 顕一

## 第7回日本味と匂学会講演会 「本能を動かす匂い: フェロモンの脳内作用」

日時:平成15年10月18日(土)

13:00 - 17:00

会場:東京大学農学部弥生講堂一条ホール

(地下鉄南北線東大前下車、東京大学農学部正門を入ってすぐ右隣)

プログラム

1. フェロモンと本能行動 森裕司(東京大学大学院農学生命科学研究科)

2. フェロモン受容体の多様性とその進化 山岸公子(東京都臨床医学総合研究所)

3. フェロモン記憶のシナプスメカニズム 市川眞澄(東京都神経科学総合研究所)

4. ヒトにおける本能と情動を動かす匂い 篠原一之(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)

5. 総合討論

参加費無料

問い合わせ先:市川眞澄(東京都神経科学総合研究所) email:mich@tmin.ac.jp, Fax:042-321-8678

## 第12回海馬と高次脳機能学会

本会は記憶、てんかんをはじめとして、海馬と隣接領域に関わる脳機能と病態について、基礎・臨床を問わず各分野からの研究者が親しく論議を交わすことを目的としています。ぜひご参加の上ご発表、ご討論下さい。詳細、参加申し込み方法は下記のホームページをご覧ください。

会期:2003年11月23日(日)～24日(月)

会場:府中グリーンプラザ(東京都府中市)

世話人:石塚 典生(東京都神経科学総合研究所)

- ・一般演題を募集します(締切り9月24日)。
- ・特別講演

「海馬におけるグルタミン酸性シナプス伝達」

小澤 滯司(群馬大学)

「海馬興奮性シナプスの構造と動態」

岡部 繁男(東京医科歯科大学)

「側頭葉てんかんと記憶」

清水 弘之(東京都立神経病院)

事務局:

〒183-8526 府中市武蔵台2-6

(財)東京都医学研究機構 東京都神経科学総合研究所・脳構造研究部門

「第12回海馬と高次脳機能学会事務局」

海津 敬倫

TEL: 042-325-3881(内線 4503, 4506)、

FAX: 042-321-8678

E-mail: kaiba-12@tmin.ac.jp

URL: <http://tmin.ac.jp/kaiba-12/>

第46回自動制御連合講演会  
(岡山)のご案内

期日: 2003年11月27日(木), 28日(金)

場所: 岡山大学 津島キャンパス〔岡山県岡山市津島中3-1-1〕

主催学会: システム制御情報学会(幹事学会), 計測自

動制御学会, 日本機械学会, 化学工学会, 精密工学会, 日本航空宇宙学会

(幹事学会: 〒606-8305 京都市左京区吉田河原町14番地 近畿地方発明センタービル内 TEL: 075-751-6413)

協賛学協会: 映像情報メディア学会, 応用物理学学会, 可視化情報学会, 画像電子学会, 環境システム計測制御学会, 計装研究会, システムエンジニアリング岡山, 自動車技術会, 照明学会, 人工知能学会, 石油学会, センシング技術応用研究会, 電気学会, 電子情報通信学会, 土木学会, 日本エム・イー学会, 日本応用磁気学会, 日本応用数理学学会, 日本オペレーションズ・リサーチ学会, 日本経営工学会, 日本原子力学会, 日本建築学会, 日本行動計量学会, 日本シミュレーション学会, 日本神経回路学会, 日本神経科学学会, 日本生物物理学学会, 日本繊維機械学会, 日本造船学会, 日本体力医学会, 日本鉄鋼協会, 日本人間工学会, 日本船用機関学会, 日本非破壊検査協会, 日本知能情報ファジィ学会, 日本油空圧学会, 日本リモートセンシング学会, 日本ロボット学会, バイオメカニズム学会, パワーエレクトロニクス研究会, Tokyo Chapter of IEEE Control Systems Society, Tokyo Chapter of IEEE Geoscience & Remote Sensing Society(依頼中)

企画内容: 研究発表講演(一般セッション, オーガナイズドセッション), 特別講演, 招待講演を主とした特別企画, チュートリアル講演, 見学会, 懇親会, 制御工学教官協議会との合同企画を計画しています。

特別講演: 岡山大学 固体地球研究センター長 中村栄三教授「地球・宇宙科学的総合分析システムの確立と展望」

特別企画: システム制御情報学会研究交流会 / 分科会企画 創発システムとインタラクション設計, ソフトコンピューティングの基礎と応用, ハイブリッドダイナミカルシステムの理論と応用, 情報通信量制限と制御, レスキュー機器 / ロボット / システム, IT時代の次世代FA技術



講演申込:下記の一般講演,オーガナイズドセッションにて研究発表講演を募集します。講演題目,登壇者,著者,著者所属,連絡先住所,連絡先電子メールアドレス,日本語概要(200字程度),キーワード,分野,オーガナイズドセッションでの発表を希望される場合は希望セッション名と共に,下記要領で発表申し込みをしてください。

1.講演申込方法:自動制御連合講演会ホームページ URL:<http://www.suri.sys.okayama-u.ac.jp/JACC2003> から申込み

2.申込〆切:2003年8月7日(木),

3.講演時間は討論を含み15~20分を予定

4.講演の採否,発表セッションの決定などは,プログラム委員会に一任願います

5.講演申込金:主催・協賛学協会会員 講演1件につき2,000円(参加費,CD-ROMを含まない)

非会員 講演1件につき3,000円(参加費,CD-ROMを含まない),講演会当日支払い

一般講演:分野と内容例 (1)計測分野:計測理論,応用計測,インテリジェントセンシング,計測機器など

(2)制御分野:制御理論,制御技術など

(3)システム・情報分野:システム理論,離散事象システム,ファジィシステム,自律分散システム,自己組織化,最適化,生体情報処理,ヒューマンインタフェース,音声・自然言語処理,ロボティクス,メカトロニクスシステム,自動化,福祉工学,人工現実感,各種システムなど

(4)産業応用分野:産業システム,計装技術,生産におけるIT化,計測・制御技術の産業応用など

オーガナイズドセッション:人間に関わる計測・制御,放射光による先端・機能材料の非破壊計測,ウェーブレット変換・応用,光応用計測,鉄鋼業を革新するフレキシブルなシステム化技術,Web利用の計測・制御,ネットワークと制御,高品質化のための鉄鋼計測技術,鉄鋼のアドバンスト制御,生産管理システム,作業自動化システム,計測・制御・システム技術の産業応用,知的システム・制御,プロセス制御応用,障害・高齢者支援

システム,実用化に向けたロバスト/適応/学習制御,ノンホロノミック制御,倒立振り子,拘束制御系の解析と制御,強化学習・CMAC,人間支援ロボット,福祉機器・アクチュエータ,ヒューマンインタフェース,医療支援システム,プラント安全管理

(オーガナイズドセッションの詳細は上記の自動制御連合講演会ホームページをご覧ください。)

原稿提出:1.原稿は和文・英文いずれも可。和文の場合も英文題目・所属・Abstract(約100語)を含む。

2.原稿提出〆切:2003年9月24日(水)

3. A4判PDFファイルにて提出,2頁~4頁(3頁も可)

4.原稿提出方法の詳細は,上記の自動制御連合講演会ホームページをご覧ください。

参加費(講演概要集を含む):主催・協賛学協会会員 2,000円,非会員 3,000円,学生 1,000円

CD-ROM:4,000円(講演申込金,参加費には含まれない)。

懇親会:11月27日(木),参加費 一般3,000円,学生 1,000円

問合せ先:〒700-8530 岡山市津島中3-1-1 岡山大学工学部システム工学科 井上 昭 気付

第46回自動制御連合講演会事務局

Tel & Fax:086-251-8233,

E-mail:[JACC2003@suri.sys.okayama-u.ac.jp](mailto:JACC2003@suri.sys.okayama-u.ac.jp)

ホテル予約:開催期間中に岡山市内で他に大規模な大会,学会が予定されて,ホテルが混み合うことが予想されます。早めのホテル予約をおすすめします。JTBにホテル予約斡旋を依頼しております。予約斡旋ご希望の方は下記へご連絡下さい。

ホテル予約の連絡先:〒700-0822 岡山市表町1-7-36 JTB 岡山支店 担当 池上・大西

Tel 086-231-9370, Fax 086-223-7759, JTBへのホテル予約申込期限:2003年10月31日

駐車場:岡山大学構内には駐車場の余裕が無く,駐車規制を行っています。自動車での来場をご

遠慮下さい。

計測自動制御学会中国支部学術講演会:同じ会場で  
連合講演会に続いて2003年11月29日(土)に第12  
回計測自動制御学会中国支部学術講演会が開催さ  
れます。

連合講演会に続いて2003年11月29日(土)に第12  
回計測自動制御学会中国支部学術講演会が開催さ  
れます。

## 研究助成

### 東レ科学技術賞および 研究助成の候補者募集

#### I. 東レ科学技術賞

1. 候補者の対象 貴学協会が関与する分野で、  
下記に該当するもの

- (1) 学術上の業績が顕著なもの
- (2) 学術上重要な発見をしたもの
- (3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの
- (4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に  
大きく貢献したもの

2. 科学技術賞 2件前後。1件につき、賞状、金  
メダルおよび賞金 500 万円

3. 候補者推薦件数 1 学協会から 2 件以内

4. 推薦締切期日 平成 15 年 10 月 10 日(金)弊会必  
着

5. 本学会の推薦を希望される方は規定の用紙に  
必要事項を記入し、平成 15 年 9 月 10 日までに  
事務局にお送り下さい。

#### II. 東レ科学技術研究助成

1. 候補者の対象 貴学協会が関与する分野で国  
内の研究機関において自らのアイディアで萌芽  
的基礎研究に従事しており、今後の研究の成果  
が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大  
きいと考えられる若手研究者(原則として推薦時  
45 才以下)

2. 研究助成金 総額 1 億 3 千万円。1 件 3 千万円

程度まで 10 件程度。

3. 候補者推薦件数 1 学協会から 2 件以内

4. 推薦締切期日 平成 15 年 10 月 10 日(金)弊会必着

5. 本学会の推薦を希望される方は規定の用紙に  
必要事項を記入し、平成 15 年 9 月 10 日までに事  
務局にお送り下さい。

財団法人東レ科学振興会

〒 279-8555

千葉県浦安市美浜一丁目 8 番 1 号(東レビル)

TEL(047)350-6103・6104 FAX(047)350-6082

各推薦書用紙は、ホームページからもダウン  
ロードできます。

URL: <http://www.toray.co.jp/tsf/index.html>

## 公 募

### 国立情報学研究所教官 (教授・助教授)公募要領

#### I 教授公募

1 公募職種・人員 教授、若干名

#### 2 研究分野

##### (1)情報学基礎研究系

脳神経科学、言語学、哲学等を背景とする認知  
科学関連研究を主体として、情報・知識に関す  
る基礎的、総合的研究を推進。

##### (2)ソフトウェア研究系

ソフトウェア工学、実時間ソフトウェア、シス  
テム・ソフトウェア、データベース・システム  
等の研究を背景として、高品質ソフトウェアの  
効率の開発と実用化に関する研究を推進。

#### 3 資質・経験等

研究成果、経験に十分な実績を有する者で、さ  
らに内外の研究機関、企業等との共同研究を主  
導した実績のある者が望ましい。

当該分野のリーダとして活動中の外国人の応募  
を特に歓迎する。

## 4 応募資格

博士の学位を有する者又は取得見込みの者

## II 助教授公募

- 1 公募職種・人員 助教授、若干名
- 2 研究分野

## (1)情報メディア研究系

マルチメディア、統合メディアにかかわる情報処理の研究を背景として、デジタル・アーカイブ、マルチメディアドキュメント、文化財情報、著作権情報、その他関連情報の処理、組織化、検索、統合管理、通信と放送の融合等のソフトウェア及びシステムに関する研究を推進。

## (2)実証研究センター

各種の情報関連システムの研究開発と応用の実績を背景として、本研究所における研究成果の実証実験、実用化、事業化を目的とする研究開発を推進し、また共同研究プロジェクトを企画、推進。

## 3 資質、経験等

上記研究分野に関して格別の研究実績を有する者で、所内、内外の研究機関、企業等との研究者と共に、研究の企画、推進、国際展開等を主導できる者が望ましい。

さらに、デジタル・アーカイブ等の共同研究プロジェクトに率先、協調して取り組む意欲のある者を歓迎する。

## 4 応募資格

博士の学位有する者又は取得見込みの者

## III 応募書類等

## 1 応募期限

日本人:平成 15 年 7 月 31 日【消印有効】

外国人:平成 15 年 11 月 30 日

## 2 就任時期

平成 15 年度内のなるべく早い時期

## 3 その他

応募書類、応募書類の様式、応募書類の提出先及び問い合わせ先については、国立情報学研究所ホームページ <http://www.nii.ac.jp/index-j.html> を参照してください。

東北大学大学院・  
情報科学研究科・  
生体システム情報学講座・  
情報生物学分野  
平成 15 年度実施入学試験情報

(大学院博士課程前期 2 年の課程、後期 3 年の課程、平成 15 年 10 月入学、平成 16 年 4 月入学)

東北大学大学院・情報科学研究科・情報生物学分野では現在大学院学生募集中です。青葉もゆるみちのく仙台は、落ち着いて研究生活を送るのに最適な環境を具えています。竣工したばかりの情報科学研究棟は抜群の研究設備を有しており、全国から意欲ある学生を募ります。主として医学系、歯学系、生物系、薬学系、農学系からの学生を対象としますが、生物系に強い興味を示す工学系学生も歓迎いたします。

当研究室では、ショウジョウバエ、マウス、ラット、ヒトを対象とし、遺伝子レベルから行動に至るまで幅広い研究を行っています。バイオインフォマティクス、神経生理学、神経内分泌学、神経科学分野の融合的研究を目指しており、遺伝子改変マウスやショウジョウバエ突然変異体を用いた実験のほか、培養細胞を用いた細胞レベルの実験も行っています。現在の主な研究テーマは、脳内ストレス回路調節機構、味覚受容体遺伝子機能解析、海馬の神経新生機構です。

入試情報の詳細は研究科のホームページへ:

<http://www.is.tohoku.ac.jp>

連絡先:東北大学大学院・情報科学研究科・システム情報学専攻・生体システム情報学講座・情報生物学分野 教授 井樋 慶一

〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉 09

Tel. 81-22-217-4741, FAX: 81-22-217-4765

e-mail: [itoik@mail.cc.tohoku.ac.jp](mailto:itoik@mail.cc.tohoku.ac.jp)

URL: <http://www.bio.is.tohoku.ac.jp>

## Laboratory Head Positions in RIKEN Brain Science Institute Neuronal Circuit Mechanisms Research Group

RIKEN Brain Science Institute (BSI) (<http://www.brain.riken.go.jp>) is seeking applicants for two laboratory head positions in the Neuronal Circuit Mechanisms Research Group in the area "Understanding the Brain". The Group aims at clarifying the mechanisms of brain through studies of structure and function of neuronal circuits of the brain. The Group presently contains two research laboratories (Lab. for Memory and Learning, head, Masao Ito; Lab. for Neuronal Circuit Dynamics, head, Thomas Knopfel) and four senior scientists. This time, two new laboratories will be sought in the theme of 1) motor control, 2) emotion and behavior, or 3) cognitive memory and learning.

New laboratory heads will be required to organize a team of 5-10 researchers and technical staff. Full support will be provided for 5 years, after which contract renewal will be dependent on a progress review made by an international review committee. There is also a possibility for candidates to be appointed as "Senior Scientists", who form an independent research unit smaller than a laboratory. Senior Scientist appointments will be for a maximum of 10 years. Applications are encouraged from outside of Japan, but researchers must work at BSI full time. Unique creative research plans matching the group's research objectives as well as a strong desire for interaction with other laboratories at BSI are essential. Applicants should send 1) a full CV, 2)

publication list, 3) a statement including main previous accomplishments, research interests, and project proposal for work at BSI (max. 2000 words), and 4) names and addresses of three references to;

Search Committee 20, Brain Science Institute, RIKEN

2-1 Hiroosawa, Wako, Saitama 351-0198, Japan  
Fax: 81-48-462-4796,

e-mail: [search20@brain.riken.go.jp](mailto:search20@brain.riken.go.jp)

Deadline: August 29, 2003

Please direct inquiries to the e-mail address above.

## 研究部門長の公募について

### 記

- 1 募集人員 部門長 1名(管理職)
- 2 専門分野 神経科学
- 3 応募資格 大卒後、研究歴が13年以上で博士の学位を有する者またはこれに相当する能力を有する者、医師で医歴11年以上の者
- 4 任期 9年(業績を評価した後更新可能とする。)
- 5 採用予定日 平成15年11月1日
- 6 給与 年俸制(財団規程による。)
- 7 部門付研究員 財団研究員(原則任期6年)または流動研究員(原則任期3年)3名採用可
- 8 提出書類
  - (1) 履歴書(高校卒以上の学歴及び職歴)
  - (2) 業績目録
  - (3) これまでの研究概要 A4 2ページ程度
  - (4) 研究所でどのような研究を進めるかの抱負 A4 1ページ程度
  - (5) 主要論文7編(別刷)
- 9 提出期限 平成15年8月1日(金曜日)(必着)
- 10 その他
  - (1) 研究部門長の身分は、財団固有職員となります。
  - (2) 選考の経過で、セミナー(9月中)をお願いします

ることがあります。

11 提出先及び問い合わせ

〒番号 183 - 8526 東京都府中市武蔵台 2 - 6

(財)東京都医学研究機構東京都神経科学総合研究所 事務室庶務係

電話 042-325-3881 内線 4156 FAX 042-321-8678

Eメール shomu@tmin.ac.jp

ホームページ <http://www.tmin.ac.jp/>

### 募集 総合研究大学院大学 生命科学研究所 博士課程大学院生

(岡崎国立共同研究機構 生理学研究所 分子神経生理研究部門 池中研究室)

URL ACCESS to <http://www.nips.ac.jp/ninfo/>

研究内容 神経幹細胞から神経細胞やグリア細胞が発生・分化するメカニズムを遺伝子、糖鎖から細胞、動物個体レベルで解析する。詳細は上記ホームページを参照。

入学資格 修士課程修了または修了見込みの方。神経発生についての研究経験の無い方も歓迎します。

出願および選抜方法 総合研究大学院大学ホームページ(<http://johosv01.soken.ac.jp/>)を参照。

連絡先

〒444-8585 愛知県岡崎市明大寺町字西郷中 38

岡崎国立共同研究機構生理学研究所分子神経生理研究部門 池中一裕

TEL:0564-59-5245 FAX:0564-59-5247

E-mail: [ikenaka@nips.ac.jp](mailto:ikenaka@nips.ac.jp)

子どもの研究に興味をお持ちの方、お気軽にご連絡下さい。研究室見学も随時可能です。

### 自治医科大学 生理学講座統合生理学部門 教官公募 (平成 15 年 6 月)

1. 募集人員: 助手または学内講師 1 名

2. 研究内容: インスリン分泌、中枢性摂食・代謝

調節、神経細胞死の機構、これらと関連する疾患(糖尿病、肥満、脳虚血)の病態解明と再生医学的アプローチの研究を、個体・組織・細胞・分子レベルで行っています。特に、分子生物学または電気生理学の経験十分な意欲的な研究者を求めます。

3. 職務内容: 医学部学生に対する生理学実習・講義(補佐)、研究活動、および大学院生の研究指導

4. 任期: 3 年 (業績審査により再任可)。

5. 応募資格: 博士の学位 (MD または PhD) 有り、40 歳未満

6. 提出書類: A4 版で、各 2 部提出のこと  
(1) 履歴書  
(2) 研究業績目録 (原著・著書など項目別、年代順に記載のこと)

(3) 研究助成金等の採択状況 (目録)

(4) 主要論文の別刷 5 編以内 (コピー可)

(5) 上記論文について それぞれ200字程度の解説文  
(6) これまでの研究内容と将来への抱負 (1000 字程度)

7. 募集締め切り: 平成 15 年 8 月 22 日 (必着)

8. 問い合わせ先:

生理学講座統合生理学部門教授 矢田俊彦  
TEL:0285-58-7320 E-mail: [tyada@jichi.ac.jp](mailto:tyada@jichi.ac.jp)

9. 送付先:

〒329-0498 栃木県河内郡南河内町薬師寺 3311-1  
自治医科大学生理学講座統合生理学部門  
教授 矢田俊彦

### A postdoctoral Fellowship

A postdoctoral Fellowship in Developmental Neurobiology is immediately available at the CNRS UMR7102 in Paris. The candidate will join a research group that is studying the role of chemotropic factors such as semaphorins and slits in axon guidance, neuronal migration and regeneration. A good training in Biochemistry and/or Molecular Biology is required. The initial appointment would be for 2 years .

Candidates should send a C.V., a publication list, a description of recent research, and the names of at least two references to Dr Alain CHEDOTAL

CNRS UMR 7102, Universit Paris 6,  
Batiment B, piece611, Case 12,  
9 Quai Saint Bernard,75005 Paris, France  
tel: +33-144273447/144272130;  
fax: +33-144272669  
mail: chedotal@infobiogen.fr

## その他

### 神経科学ニュース、 神経科学学会ウェブサイトへの 記事の掲載について

学会への提言、研究雑感、学会見聞録、書評等神経科学の発展につながるものであればどのようなものでも結構ですとお送りください。

1. 原稿は電子版のみを受け付けています。原稿は電子メール添付ファイルでお送り下さい。

(a) 受付可能なファイル形式は Word(2001以前)、EG Word(11以前)、Kacis Writer です。それ以外にも或る程度対応可能ですが、事前にご相談ください。また作製に用いたアプリケーションに関わらず HTML, rtf ファイルは受付可能です。テキストファイルも可ですが、その場合メール本文に埋め込んでください。

(b) 画像ファイルは PICT、JPEG または TIFF ファイルで、可能な限り圧縮して本文とは別のファイルでお送りください。

2. 校正は行いません(お送りいただいたファイルをそのまま利用します)ので、誤りの無いことをお確かめの上、原稿をお送り下さい。

3. ニュースへの掲載は1回のみとさせていただきます。

## 神経科学ニュース電子版 パスワード

本ニュースの電子版のダウンロードには Umin のパスワードが必要です。皆様方の会員固有の user ID、パスワードを入力してください。半角で、大文字小文字を区別して、入力してください。

## 編集後記

うっとうしい梅雨の季節ですが、皆様ますます研究に邁進していらっしゃると思います。4月に新しくラボに参加された方々もようやくエンジン全開というところでしょうか。あるいは、神経科学学会が近づき、その準備に御多忙の日々をおくっていらっしゃるでしょうか。心配された SARS もほぼ沈静化したようですので、予定どりの外国人研究者の参加を得て、活発でハイレベルな学会になることが期待されます。神経科学学会員の先生方の積極的な参加をお願いいたします。本号では、富田先生に「UCSFへようこそ」という文章を寄稿していただきましたが、アメリカ西海岸の最先端のラボの雰囲気がよく伝わってきて、日本のラボとの違いを痛感させられました。印象深いのはそのオープンな雰囲気、情報交換が非常に活発に行われている様子です。小規模な日本の大学や研究所では、興味が近い関連分野のラボが少なく、このような状況はなかなか実現し難いのが現状だと思います。「情報戦」では不利な状況にあるのは如何ともしがたいですが、逆にアメリカの人たちがこちらの情報を簡単には得難いことも事実ではあるので、これをうまく利用できないかななどと、取り留めの無いことを考えたりしました。(狩野記)

発行：広報委員会  
村上富士夫(委員長)  
狩野方伸(ニュース編集小委員会委員長)  
蔵田 潔(電子化推進小委員会委員長)  
白尾智明(ホームページ担当小委員会委員長)